

一人ひとりの夢。思いを大切に

「福社」しなふくニュース

編集人 しなふくニュース編集委員会 発行人 永田 元
発行所 品川総合福祉センター 〒140-0003 東京都品川区八潮5-1-1
電話 03(3790)4839 法人URL <http://www.shinafuku.com> E-mail info@shinafuku.org



二年間にわたる新型コロナウイルス対策にもようやく収束の見込みが出てきましたが、今後も油断はできません。引き続き職員一丸となつて感染予防対策に努めるとともに、「新しい日常」が構築できるよう頑張つてしまります。品川総合福祉センターは間もなく法人設立四十周年を迎えます。これまでの実績を礎に、最近の福祉を取り巻く環境の変化、とりわけ「少子高齢・人口減少社会」への移行に伴う福祉ニーズの多様化・複雑化やこれらのニーズに對応できる福祉人材の確保・育成など、多くの課題にしつかりと向き合い、地域の皆さんと共にこれから社会福祉法人として取り組むべき新たな道筋を作つていきたいと思つています。ほどよろしくお願ひ申し上げます。

理事長
永田 元

明けましておめでとうございます。

新型コロナウイルス感染症による所控えやご利用者の方々の不便をおかず、心より感謝いたします。



理事長
永田 元

令和四年 新年のご挨拶

二〇二二年の想いを漢字一字で表してみました



常務理事
小野孝



事務局次長
松木 利彰

省

当法人の中長期計画人権部会の職員実態調査で、我々の業務中の言動に改善すべき点の存在が明らかになりました。個々言動を省みて、改善を進める年にしたいと思います。

鮫洲なぎさの家 想いと、皆が晴れ晴れとした表情でプライベートも仕事も充実出来ればという想いです。福祉工場しながわ

耕

あけましておめでとうございます。

皆様には、お健やかに新しい年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。

昨年、大拡大したコロナウイルスも、秋口からは急速に縮小に向かいました。今年は新たな発展を目指して、「耕」

の一宇を胸に刻み、一人一人の職員がしつかりと品福の大地上に根を張り、大きく成長してより良いサービスの花を開くことができるよう努めてまいります。

皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

観

あけましておめでとうございます。

「観」には気象観測のカンの他、変化を分析し物事の本質を捉える「観る」の意味があります。約二年間のコロナ禍では多くの変化を強いられました。その殆どは負の内容でしたが一方、新しい生活へ

変化するきっかけとなつた部分もあります。状況が落ち着きつつある今、立ち止まって「観る」ことによつて、その本質を捉え直し次に進む道を考える時期なのはと思つてまいります。今年一年、良い天気が続きますように。

晴

通せるようになれば良いという

障害者施設統括施設長
かもめ園（身体・知的）

施設長 奥田 美紀

穩



施設長 加藤 久明

障害者施設統括施設長
サンかもめ

省

皆さんと共に現場・現実を直視し将来を見据え、より良い法人を目指し変化と改革に挑戦していきます。

化

施設長 石川 勝則
皆さんと共に現場・現実を直視し将来を見据え、より良い法人を目指し変化と改革に挑戦していきます。

愉

さつき

施設長 日高 昭芳

どのような状況に置かれても、自分自身の考え方や気持ちの持ち方で、どうにでも変えられる信じて過ごしていきたいと思つています。

品川区旗の台障害児者相談支援センター、品川区障害者地域活動支援センター逢、中延・大井第二・八潮の各品川区障害者計画相談支援事業所

施設長 吉澤 利恵



介護者の支えとご利用者の
介護予防・健康増進のサービス
を提供し、皆様が「喜んで
生活する」ことが出来るよう
お手伝いをさせていただきま
す。

高齢者施設統括施設長

大井在宅サービスセンター

大井在宅介護支援センター

施設長 宮田 健一

施設長 濱本 幸子

かえで荘

「動」という言葉には、う
ごくこと、変わること等の意
味があります。

今年は様々な「活動」「感
動」を再始動したいという願
いをこめて：

この字には、①穏やかにな
る。平和になる。②まじりあ
う。調和する。という意味が
あり、全ての方に「和」を大
事にしていきたいと思います。

法人職員が一枚岩となるよ
うに、緯（よこいと）を紡ぎ、
繋げたいと思います。

管理者 佐藤広子

紡

何本もの纖維
をより合わせて、
一本の糸となる。

八潮北保育園準備室
室長 細根 真紀

喜



品川区立心身障害者福祉会館
施設長 萩原 幸寿

く、相手にしつかりと伝わる
ように表していきたいと思い
ます。

礼



中延特別養護老人ホーム
中延在宅サービスセンター
中延在宅介護支援センター

そして『和を以て貴しとな
す』の和ですから！今年も最
高のチームで最高のケアを実
践します。

和



施設長 小山 正子

今年は全員で集まり楽しい
ことができたらいいなと思つ
ています。もちろん「地域と
共に」を忘れずに：

動



八潮南特別養護老人ホーム
グループホーム八潮南
施設長 菊池 広美

新型コロナウィルス感染症
予防のため、フロア間の行き
来ができなくなりました。

共



八潮中央保育園
園長 矢島 真奈美

一年であります。

伝



人から人へと
りつぐ、つたえ
る、つたわる。

希

新型コロナウ
イルス感染症対
策に明け暮れた
この二年間。ようやく出口が
見えたつある昨今、封じてい
た様々なことを「希(のぞむ)」
一年であります。

今あるものを大切に引継ぎ、
新たな形として多くの人へ伝
えて、伝統を築いていきたい
です。

紡

人から人へと
りつぐ、つたえ
る、つたわる。

し

な

ふ

く

さんぽ
vol. 6

品川区の興味深い場所・旬な情報を、「しながわ歌留多」※を元に、編集委員が足を運び取材し、シリーズで年1回お届けしています。今回の『絵』の文字札は、『江戸越えて 銀座を受け継ぐ 商店街』。現在は約4百件の店舗が軒を連ねている知らない人はいない知名度の高い商店街ですが、現在に至るまでは数々の奥深いストーリーがありました。現在の礎を築かれ、牽引されている方々をご紹介します。活気ある商店街を散策して、あなたのお気に入り「とごしごんざブランド」商品を見つけてみませんか。



※ (株)スラップショット制作

「地域を良くしたい」という熱い想いが、商店街を活性化させるための試行錯誤を経て、現在の商店街へ発展。亀井さん作成の一枚の企画書から、日本で初めて「商店街を作るブランド商品」である十品目が開発されました。ホームページを持つ商店街は珍しかった当時、「ブランドオンラインショッピング」完成と共に日本全国への商店街の知名度があがつたそうです。



新たな出会いを未来へ繋ぐ、亀井さん

「地域を良くしたい」という熱い想いが、商店街を活性化させるための試行錯誤を経て、現在の商店街へ発展。亀井さん作成の一枚の企画書から、日本で初めて「商店街を作るブランド商品」である十品目が開発されました。ホームページを持つ商店街は珍しかった当時、「ブランドオンラインショッピング」完成と共に日本全国への商店街の知名度があがつたそうです。

「出会いはタイミング」。
価値観がある中、商店街として挑戦できることを先駆的に超えた立場を超えて、世代を超えて、戻りました。



お子様にも大人気！
戸越銀座メロンパン

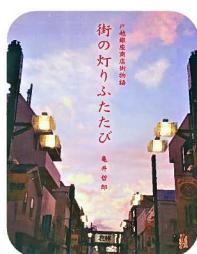
七十年という老舗ベーカリーの三代目「ほしのベーカリー」の星野馨さん。定食屋を経て、二代目でパン屋を始められた時代「困っているなら連れておいでよ」と障害者の就労支援としての雇用を

前向きに受け止め挑戦をし続けることで、次なるステージへつながっているそうです。地元学生たちとの产学連携の日本で初めて「商店街を作るブランド商品」である十品目が開発されました。ホームページを持つ商店街は珍しかった当時、「ブランドオンラインショッピング」完成と共に日本全国への商店街の知名度があがつたそうですが、それがきっかけで、新たな出会いが生まれました。

もうお一人は、創業およそ七十年という老舗ベーカリーの三代目「ほしのベーカリー」の星野馨さん。定食屋を経て、二代目でパン屋を始められた時代「困っているなら連れておいでよ」と障害者の就労支援としての雇用を

始められました。パン屋の調理器具は高温の鉄板等、危険なものが多いそうですが、その危険を避けるために、障害者がおりなかなか気づくことができない方々に何をどのように教えればよいか大変迷われたそうですね。そのような雇用を続けることができるお子さん等、様々な障害をお持ちの方々を受け入れられてきたそうです。二代目の気持ちを引き継がれ、おいしいパンだけではなく優しい地域社会の実現に一役買われていらっしゃるお姿に敬服する思いでした。取材中店頭に出された揚げたてのフレーパンはあつという間に完売。人気の高さを感じました。

これからも、戸越銀座商店街から目が離せませんね。

『街の灯りふたたび』
(戸越銀座商店街物語)

著者：亀井哲郎



おいしいパンに囲まれて。

社長星野さんと編集委員

品川区八潮障害者
計画相談支援事業所開設

障害のある方が安心して高齢期を過ごせる地域にしていくために。いくつになつてもその人らしく支えたい」と十月一日、「八潮パークタウン」内の八潮南特別養護老人ホーム一階のスペースに、八潮在宅介護支援センターの移転と共に開設しました。

令和元年より段階的に進めている品川区のモデル事業「在宅介護支援センター併設型障害者相談支援事業所」。地域の在宅介護支援センターに窓口を併設し、若年期・青年期等とは異なる利用者・ご家族の状況に寄り添う相談支援事業です。

年齢などに応じて介護保険への円滑な移行や、公的サービスの支給に必須である計画書の作成などを書いていきます。八潮地域は東京湾や運河に

囲まれコンテナふ頭、火力発電所といつた湾岸ならではの特徴もある中で、公園も多く水辺と緑に囲まれた場所です。パークタウンは世代を経て区内でも高齢化率が高い地域となりました。この高齢障害者への相談支援事業所が身近に相談できる場として、また地域の高齢者福祉との信頼できる連携機関として役立ち、八潮に根差す事を目指していく



坂を上がって突き当り左にあるこの看板が見えたら、左奥に事務所があります



リーダー会班活動 part3 ディスカッション班

品川総合福祉センターには、「リーダー会」による月に一回の会議があります。現在は五班に分かれ、それぞれ活動を行ないながら法人の事業向上のため、奮闘しています。このコーナーでは、五回にわたって、班の活動をご紹介しています。

活動班の一つ「ディスカッション班」では法人の課題に着目して、改善に向けて話し合うことを目的に、テーマを設定してディスカッションを行うといった活動を行っています。

法人のリーダーは現在四十三名。新型コロナ感染症予防対策下では、ZOOMによるオンラインでの工夫をしながらも、

少人数に分かれ、意見交換を行い、情報の共有も併せて行って参りました。これまで、「リーダーとして部下にきちんと伝えられているか」「働き方改革」「感染症対策」等様々なテーマで、議論を行い、施設毎の困りごとを抽出して助言を伝え合ってきました。「法人リーダとして何をするべきか」等の議論の結果、前回本誌で紹介のあつた「切磋琢磨班」発足のきっかけにもなっています。

また過去二年間はリーダーを対象とした研修を実施する際、研修テーマに紐づけた議論を行いました。このことでより効果的に研修での学びを得られたと思います。今後も法人が抱える問題の改善に向けて議論を行います。

人を目指して活動を行いま



(コロナ禍前に集まれていた頃)

前向きな議論を目指しています

凧揚げの起源

紀頃の中国といわれており、當時は現在でいう狼煙のような役割で戦の中で使われていました。

その後、平安時代に日本に伝わった時に日本に伝わった時

として使われていたようです。凧の形も始めは鳥の姿をしていました。地方によつて縁起が良いもののが形に変わるなど様々でした。

江戸時代になると凧が安定してあがるようにするためには今でも見るヒラヒラした足（しつぽ）を付けるようになります。風により凧が回転でしょ。足を付けた凧はその

豆知識

の姿が鳥賊に似ていたことから、この時代には凧揚げではなく鳥賊のぼりと呼ばれています。ある日、火のついた鳥賊のぼりが江戸城に落ちたことがありました。しかし府は鳥賊のぼり禁止令を出したことは江戸っ子、「あれは鳥賊ではなく蛸だ」ということにして凧揚げは続けたのだとしました。

お正月に凧揚げをするようになつたのは江戸時代後期で、「立春の季に空に向くは養生の一つ」として縁起担ぎの一つとして庶民に定着しました。

障害をお持ちの方や高齢の方を日頃より支えてくださっているボランティア・地域区民の皆さんを対象に、ボランティア講座を開催します。心豊かに活動するために、ご自身の理解を深めましょう。より良い支援の輪を広げ、地域福祉力の向上を目指します。

日時／令和四年三月十二日

申込・お問い合わせ／電話
○三一三七九〇一四八三九

（土）十四時～十六時
場所／大井第二地域センター
大井第二区民集会所
講師／一般社団法人終活コン
定員／二十名（先着順）
申込開始日／令和四年一月二
十四日（

（土）十四時～十六時
場所／大井第二地域センター
大井第二区民集会所
講師／一般社団法人終活コン
定員／二十名（先着順）
申込開始日／令和四年一月二
十四日（

ボランティア講座のご案内

「心豊かに活動するため知識を深めよう」

お知らせ 地域と共に

品川総合福祉センターは、品川区八潮地区に根付き三十年余経ちました。コロナ禍、互いに困難な状況にある中でも地域の皆さんとのつながりを引き続き大切にしていきたいと思っています。

そこで、昨年十月～十一月、『心のつながり 地域と共に二〇二一』と題し、心をひとつに、今を共に乗り越えようという思いで、地域の皆さんとのメッセージ交換を行いました。施設の利用者が心を込めて書いたメッセージをお届けし、お返事にいたいたメッセージを、センターロビーに掲示しました。次号でご報告いたします。

